

図書便り

第145号
(祝卒業記念号)
2021/2/26発行
茨城県立筑波高等学校
図書委員会



【図書室からの大切なお知らせ】
* 図書館で借りた本をまだ返していない人は、
3月12日(金)までに必ず返却して下さい。



卒業おめでとう



**3年生のみなさん、
ご卒業おめでとうございます！**

特集！先生方からの推薦本

～卒業後も人生を変えるような素晴らしい本と出会ってください～

* 茂呂 輝夫 校長先生より

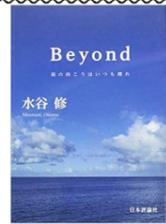
「心を育てるグループワーク 楽しく学べる72のワーク」 茨城大学教授 正保 春彦 (金子書房)

「人間関係づくり演習」でご指導をいただいている正保春彦先生の本です。本校で実施されたワークも掲載されています。教育、心理、保育、福祉、看護、介護などの方面に進まれる方は必読です。また、新入社員研修などでも実施されています。グループワークをとおして学校や会社、施設、病院などで笑顔があふれ、その中でさまざまな学びが広がっていきます。



* 鈴木 謙司 先生より
「Beyond 雨の向こうはいつも晴れ」

水谷 修 (日本評論社)
私の尊敬する水谷先生の本です。心にひびきます。



* 大島 麻里 先生より
「ハリー・ポッター」(全巻)
J・K・Rowling (静山社)

緑の眼に黒い髪、そして額に稲妻型の傷を持つ、魔法学校1年生ハリー・ポッターと友達ロン、ハーマイオニーの冒険ストーリー。映画は観たことあるけど、原作を知っている人は少ないのでは？春休み中に映画と見比べながら読んでみると面白いですよ！最後の巻は涙なしでは読めません！！



* 長久保 静江 教頭先生より 「銀の匙(さじ)」

①漫画: 荒川 弘 (小学館)
②小説: 中 勘助 (小学館文庫、角川文庫、新潮文庫 他)

「銀の匙 Silver Spoon」は「鋼の錬金術師」の作者荒川弘が描いた北海道の農業高校を舞台とした高校生の話です。将来について悩む中高生にとっては、自分のこと、家族のこと、命のこと、などなど、とても面白く読める漫画です。これを読んだら、中勘助の「銀の匙」に挑戦しよう！夏目漱石が絶賛した至極の小説なのだから。。。



* 教務主任 前島 美菜子 先生より

「バスに乗って」 重松 清 (「一日10分のしあわせ」双葉文庫)

入院している母を見舞うためにひとりでバスに乗って出かける少年。ぶっきらぼうで怖い、心優しいバスの運転手河野さん。河野さんとの日々の交わりの中で大きく成長していく少年のようすが描かれます。自分の行いが世の中で誰かのためになっていることのすばらしさを改めて感じる一冊です。みなさんも経験したことのあるような話が出てくるので、高校生のみなさんもたいへん読みやすいと思います。ぜひ手に取って読んでみてください。



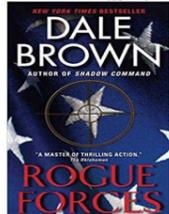
* 進路指導主事 門井 浩 先生より
「ヤノマミ」 国分 拓 (NHK出版)

奥アマゾン(ブラジルとベネズエラの国境付近)に暮らすヤノマミ族との生活をNHKディレクターが体験した記録である。読んでみてほしい。ショッキングなことや現在置かれてる危うい立場を知ることができる。



3学年主任 笹目 淳一 先生より
「ROGUE FORCES」 DALE BROWN (Kindle版)

推薦できるかどうかは難しいところですが、現代世界における世界的地域的な紛争の原因を基にしたフィクションです。作者が元アメリカ空軍の爆撃機パイロットという異色の経歴を持ち、その知識を生かしたスリル満点の小説です。



* 大木 健 先生より

『世界で一番美しい元素図鑑』 セオドア・グレイ (創元社)

化学の勉強が苦手という人は必見！！絵本のような感覚で読める元素の図鑑です。身近な道具や食べ物などのような元素でできているのか知ることができます。「世界で一番美しい」と自らハードルをあげているだけに、写真がとても綺麗で、その名に恥じない作品になっています。



* 田巻 絵里奈 先生より
「人質の朗読会」 小川洋子 (中央公論新社)

テロ事件の人質たちが、一人一人自分の思い出を語っていくお話です。人質という状態にもかかわらず、悲壮感はなく、彼らの日常の一場面が丁寧に描かれています。自分ならどんな思い出を話すか考えてみると、面白いかもしれません。



* 池田 孝子 先生より

「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」 フレイティみかこ (新潮社)

本屋大賞 2019年ノンフィクション本大賞受賞作品
イギリスでも様々な社会問題があり、学校に通う息子のエピソードからそれらを考える良い機会になると思います。自分の周りと比較しながら読んでみて下さい。



* 山崎 かおり 先生より

「警視庁災害対策課防災ヒント110」 (日本経済新聞社)

地震や豪雨、台風などによる災害は、いつも私たちの身近に存在しています。そんなときに役立つのがプロ直伝の日頃の備えと正しい知識です。東日本大震災から10年の今、この本で防災意識を高めてみてはいかがでしょうか。



* 長沼 正 先生より

「孤高の人」「アイガー北壁・気象遭難」 新田次郎 (新潮文庫)

高校時代、進路に悩んでいたときに読んだ「山岳小説」である。山に登らない(登山家)、冬山に行ったことのない(アルピニスト)、岩山に登らない(ロッククライマー)。そんな私でも、小説の中なら、想像の中なら、あらゆる困難を克服できた。読書はそれを可能にする。



